

人口減少社会における地域を支える人材を育てる 持続発展可能な地域をつくるユネスコスクール

岡山県立矢掛高等学校 ESD 課長 高木 潤



1 高校と地域が関わるこの意味

人口減少社会において、若者が高校卒業後にどのような道を選択していくのかということは大きな注目事項だ。都会は若者にとつて魅力の多い場所かもしれない。地方から都会に進学・就職を決め、そのまま都会で生涯を過ごす者が増えれば、地方の人口減少は加速していくだろう。逆に地方に残り人生を歩む者、一度都会に出たとしても再び地方に還ってくる者の数が増えれば、地方の人口減少に歯止めもかかるかもしれない。ただいづれにせよ、若者の進むべき道の選択を高校側から強要することはできない。選択肢それぞれの魅力を「持続発展可能な社会」という側面から伝えていくこと。それが高校にできること、使命だとも思う。遠くでも都会の魅力は若者に伝わりやすい。近くでも地方の魅力は伝わらない。もしもそういう現実があるならば、高校は地域と積極的に関わりつつ「地方の魅力」を若者に伝えていくべきだろう。

2 地域と関わる授業

本校では様々な場面で地域と関わるこ

とを意識している。大学進学を目指す「普通科・探究コース」、基礎固めをしながら進路探しをする「普通科・総合コース」、商業科目や資格取得が特徴の「地域ビジネス科」。3つのコースに分かれる本校では、それぞれのコースに地域と関われる授業を設定している。

探究コースでは「総合的な学習の時間」を活用し、地域課題を解決するアイデアを様々な学生コンテストに応募している。コンテストでの入賞如何に関わらず、地域課題を知り、それを解決する提案を行っていくことで、地域への深い理解と改善意欲が芽生えることを願っている。



学生コンテスト受賞の様子

総合コースでは学校設定教科「やかげ学」の時間(毎週木曜日の午後)に、生徒は校外へ出ていく。本校と提携している町内14施設で仕事のお手伝いをさせてもらっているのだ。保育園や小学校、老人ホームや美術館、図書館、農業体験施設など。各生徒は自分が行くことに決めた施設へ一年

間、毎週通い続ける。施設の職員の方には指導していただきながら、働くこの意味や地域に根ざした施設の魅力を感じ取る。人とのつながり、異世代間の交流、学校では出来ない体験を通じて、地域を学び、地域の方々に応援されながら、自身の進路選択の材料を見つけ出している。



やかげ学の実習授業の様子

地域ビジネス科では、商店街や農業施設などとコラボして「商品開発」を行う。気になる商品を販売している店や農場を訪ね、新しい商品開発の話を持ちかける。断られたり受け入れられたりとの交渉を続けながら、企画を提案し、試作品を作り、完成した新商品は町の「大イベント」「大名列行」で販売する。実践的な取り組みを体感する中で、この地域の特性を知りながら



開発商品を販売する様子



地域づくりと人づくりを押し上げる「高校」

～“魅力を発信”地域の中心に高校がある～

希望者参加



白石島ESDプログラム 夏休み

瀬戸内海に浮かぶ白石島で、この島の持続発展可能性を考える1泊2日の学習合宿。シーカヤック自然体験を初め、公民館館長の話、民俗、商店、交通などへの聞き取り調査フィールドワークなど、様々な面から島の持続発展を考える。



徳島県上勝町視察 夏休み

「ゴミゼロ宣言」の町、莫っぱを使ったビジネス「彩り」事業、高齢者によるICT機器活用など、少子高齢化の進む中山間地域においても様々な挑戦を続けている上勝町を訪ね、住民協力による最先端の地域おこしの様子を日帰り視察する。



岡山県真庭市バイオマスツアー 夏休み

地域をあげて「バイオマス事業」に取り組む町・真庭市を視察し、行政、企業、商店街などの視点から、どのような組織づくりがなされて地域おこしに成功したのか、工場見学や市役所訪問などを通してその秘訣に迫る。

全員参加



ESD講演会 5月

ESD (Education for Sustainable Development) とは何か？毎年、矢高卒業生や大学教授、ユネスコスクール関係者、NPO、地域おこし協力隊の方などの中から一人お招きし、体育館でそれぞれの体験談を交えてESDのエッセンスを語っていただく。



YAKOアワード 3月

一年間やってきたそれぞれの活動を希望者が前に出て発表するプレゼン大会。日頃見えてこない友達の活動を互いに知り合い、地域の課題などを互いにシェアし、来年の活動の参考にしていく。生徒、教員、地域のみなさま審査員となり各発表を採点。

表1 地域と関わる矢掛高校オリジナル行事一覧

ジネスのノウハウを知ってゆく。

3 地域と関わる行事

修学旅行にせよ、遠足にせよ、生徒は仲間たちと学校の外で過ごす特別な時間を好む。楽しい思い出と共に、そこでの学びを印象深く記憶していく。長期休みを利用して希望者参加で行われる校外行事では、「持続発展可能な社会」への挑戦を行う地方を視察することで「地方の魅力」を感じ取る。

4 地域と関わる地域コーディネーター

また、年度始めと終わりに行う全員参加の校内行事では、外部講師から「持続発展可能な社会」の概念を学び、生徒同士の活動発表の中から「持続発展可能な社会」への関わり方を学ぶ。

矢掛町には、町内の小・中・高校生が一緒になって活動を行う「YKG60」（やかげ子ども連合）という団体がある。その代表を務められている町内のママさん（井辻美緒さん）が現在、本校の「地域コーディネーター」という肩書きを持っている。数年前から設定しているこの肩書き（役職）はまだ曖昧なところも多いのだが、今年発生した西日本豪雨災害の時には、隣町の真備町から通う被災生徒ら80名へのヒアリングを行っていたなど、高校と地域をつなぐ重要な役割となっている。教員の異動などで質を保った継続的な地域連携の実施が難しい高校現場では、こうした「地域コーディネーター」の重要性が増している。



地域コーディネーターが子どもたち主体の地域活動をサポートしている様子

5 ユネスコスクールとして

岡山県には現在10校のユネスコスクール

教員の配置 (理想のイメージ)

地域連携活動

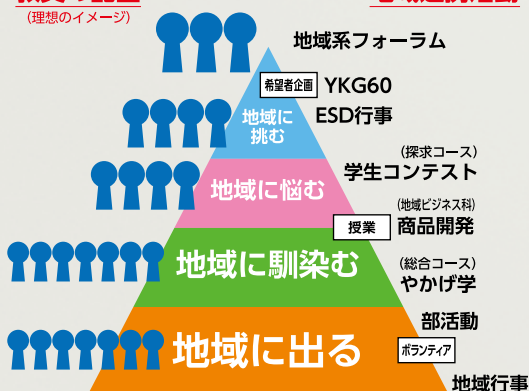


図1 地域との関わり方の性質で分けてみた矢高地域連携活動図

ル高校がある。毎年秋には全校が集まる「実践交流会」があり、そこで情報交換やワークショップが実施され、互いのレベルアップが図られる。H20年からユネスコスクールに加盟した本校は、H23年には「第一回ESD大賞」（高校の部）を受賞し、その後もH26年に岡山市で開かれた「ユネスコスクール世界大会・高校生フォーラム」の運営などで多くのことを学んできた。同じユネスコスクール仲間である愛媛県立新居浜南高校との交流もあり、特に地域と関わる先進的な試みなどは参考になっている。人口減少社会において、誰も経験したことのない困難な課題が多く現れてくるであろう今後、こうした同じ視点を持つ高校同士の連携や協働は、大きな意味を持つてくるだろう。